

ネットワークボード

現在、コロナウィルスの流行は、先行きが見えないままです。今回ご紹介したように、ぱれっとも休止や延期などを含んで、様々な対応を続けておりますが、3月と言えば年度末が近づき、やがて社員総会が開かれる季節がやってきます。その時までには状況が終息に向かっているれば良いのですが、もし変化が無かった場合、大人数が集まる理事会や総会の開催についても検討しないといけない事態が予想されます。認定NPO法人シーズでは、3月5日、内閣府に向けて要望書を提出、緊急事態としてNPO法の柔軟な運用を求めました。これに対し内閣府も、総会、理事会の開催方法、事業報告書の提出期限延長など、法律の範囲を大きく越える運用ではないものの、その解釈について立場を明確にする回答を出しています。要点を右に掲載します。参考にしていただければと思います。(編集部)

【内閣府 NPO ホームページより】

<https://www.npo-homepage.go.jp/news/coronavirus/coronavirus-qa>

1. 法律上、社員総会の開催を省略することはできないが、社員は書面(ハガキなど)と電磁的記録(メール、FAXなど)によってその決議を行ない、これをもって総会に出席したと見なすことができる。ただしこの場合は、定款にこの決議手法についての記載があることが必須。理事会については、WEB会議システム等によって、双方向の声が容易に共有しうる状況であれば、実際に集まらなくても開催したと見なすことができる。

2. 今般のコロナウィルス流行の事例はNPO法による「天災の影響」に相当すると考えられるため、事業報告書の提出遅延などの案件は所轄庁に相談の上で認定NPOの要件上の配慮などについて進めていくことになる。

※このほか、コロナウィルスに関するNPO法人の運営相談は、認定NPO法人シーズ

URL: <http://www.npoweb.jp> まで



編集後記



今年のアカデミー賞作品賞に韓国映画「パラサイト半地下の家族」が選ばれた。アジア圏、そして外国語映画としても史上初。監督賞・脚本賞・国際映画賞の4冠にも輝く。主演男優のソン・ガンホ氏は、JSA・殺人の追憶・大統領の理髪師・グエムルの主演を務めるなど、個人的には熱烈なファンの一人でもある。

韓国の格差社会を痛烈に描いたこの映画、タイトルのパラサイトは寄生虫という意。貧困家族が上流家庭に家族一人一人が巧みな工作を使い寄生していき、裕福な快樂生活を満喫していく。寄生家族が住むスラム街が大雨で水没していくあたりは、如実に貧困層が置かれる状況がうまく描写されている。ラストに向かうほど気持ち晴れない映画になっているが、脚本賞も受賞しただけあり、ストーリーの展開は見る者を決して飽きさせない、心底うならせる映画である。

学歴偏重が生み出す格差社会、日本も例外ではなく、福祉の世界にもこうした時代の波が押し寄せている気がしてならない。(理事長・相馬)